

2016年5月24日掲載

「完璧でなくても」

ゴールデンウィークは関東から学生時代の友人が遊びに来たので、一緒に札幌市内や小樽、定山溪などの観光地を巡った。海や山が間近にあり、さらには雪山に桜が映えるなど、北海道ならではの自然の美しさにあらためて感動したとともに、特にアジア系の観光客の多さにも驚いた。日本へのインバウンドが伸びていることにもあらためて気づいた。

連休後のことだ。仕事で移動するためJR札幌駅の改札を入ると、アジア系の女性観光客グループに、英語で「小樽に行きたい」と話しかけられた。日ごろ英語で話す機会がないので一瞬動揺したものの、単語をつなぎ合わせて小樽行の電車を案内することができた。

気づいたのは、「英語が完璧に話せなくても伝わる」ということだ。本当に困っている様子だったので「なんとか案内したい」という気持ちが伝わったのかも知れない。インバウンドの隆盛にともない、北海道でも英語をはじめ外国語を使う機会が増えてきている。「ちゃんとしゃべれないから」という「やり方」を気にするといつまでも会話ができない可能性がある。「どうしたいのか」という「あり方」を意識するだけでも行動が変わるのではないだろうか。

以前の海外旅行で、現地の言葉が話せなくてもジェスチャーや単語でコミュニケーションが取れたことを思い出した。「伝えたい」という気持ちは言葉を超えるのだろう。完璧さを求めず、自分らしいコミュニケーションを大切に相手と接していきたい。